

## 第21回 青森県総合計画審議会

日時 平成26年6月30日（月）

15:00～16:00

場所 青森国際ホテル2階 春秋の間

（司会）

ただ今から、第21回 青森県総合計画審議会を開会いたします。

私は本日の司会を務めます企画調整課の天内と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、審議会委員30名のうち26名の御出席をいただいております。青森県附属機関に関する条例に定める定足数を満たしております。

それでは、開会に当たり、青森県知事 三村申吾より御挨拶を申し上げます。

（三村知事）

本日は、御多忙の中でございますが、第21回青森県総合計画審議会に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、審議会委員の皆様方におかれましては、日頃から県政全般にわたりまして、格別の御理解と御協力をいただいております。心から感謝を申し上げる次第でございます。

さて、県では、これまで持続可能な青森県づくりのため、地域における新たなシステムとイノベーションが必要と考え、「攻めの農林水産業」、「保健・医療・福祉包括ケアシステム」、「次世代ライフ関連産業」などの取組を実践いたしますとともに、国に対しても政策提案を行ってきたところでございます。

この4月には、皆様に精力的に御審議をいただき策定いたしました「青森県基本計画 未来を変える挑戦」をスタートさせ、めざす姿として掲げました、青森県の「生業」と「生活」が生み出す価値が世界に貢献し広く認められている状態、すなわち、「世界が認める『青森ブランド』の確立」に向け、しっかりとスタートダッシュを決めていきたいと考えております。

また、基本計画では、本県の豊かな自然と真面目な県民性から生み出される優れた農産品を始めとする「食」の活用や、最重要課題でございます人口減少の克服と健康長寿県への転換に向け、分野横断で取り組む3つの戦略プロジェクトを掲げさせていただきました。「強みをとことん、課題をチャンスに」というコンセプトの下、成果を発現させ、青森モデルと言われるような仕組みを作っていくため、全庁一丸となって取り組んでいるところでございます。そして県民の皆様と、この計画を共有するため、積極的に基本計画のプロモーションを進めているところでございます。

本日は、平成27年度において県が重点的に取り組むべき事項について、審議会の各部会や幹事会で検討されました内容を基に、御審議の上、御提言をいただくこととなっております。これまで各部会におきまして、精力的に御検討いただきましたことに、改めて御礼を申し上げますとともに、県では、本日の御提言をしっかりと踏まえ、めざす姿に向け着実に進めていきたい、進んでいきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、御審議の程、よろしくようお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

繰り返しになりますが、本当にお忙しいところ御出席を賜り、ありがとうございました。

(司会)

それでは議事に入ります前に、審議会委員の交代について御紹介をさせていただきます。

資料の審議会委員名簿を御覧ください。

これまで委員として貴重な御意見をいただき、基本計画未来を変える挑戦の策定にも御尽力いただきました宮下俊郎委員が退任され、新たに山口智之様が委員に就任されました。なお、山口委員は本日御欠席となっております。

それでは議事に入りたいと思います。末永会長は、議長席へお移りください。

(末永会長)

会長を仰せつかっております末永でございます。これから審議に入りますが、その前に一言だけ、実は今日、大阪空港から青森に帰って参りました。これは知事を始め青森県の各界の関係者の御尽力だと思っておりますが、明日からANAが3便飛ばすと。札幌もそうですが、本当に嬉しいことです。

実は、今日、京都駅から伊丹まで、高速バスに乗りましたら、いわゆるバスのポケットに青森県のものばかり、3種類ありました。1つは、青森県の観光その他、盛りだくさんあった20ページくらいのパンフレット。それからANAの、要するにダブルトラッキングになるよというお知らせですね。それに伴って9月末頃に景品が当たりますよというものが入っていました。

まあ、すごいなと思って伊丹空港に着きましたら、JALの搭乗口まで行く間も、「さあ、青森だ」という形でのぼり旗がたくさん立っていました。それも今度はANAと競合しますから、「青森に行くには三沢もあります」という形でJALは宣伝をしているんですね。なかなかうまいなと思いました。

このような形で、新幹線もそうですが、交流人口を増やしていく。今までの倍まではいきませんが、最近団体旅行が少ないので、グループ旅行にはちょうどいいくらいの飛行機だなと思っていました。

そういうチャンスを知事以下関係者の方々から作っていただきましたので、我々委員といたしましても、さらなる青森県の発展のために、この場合は観光交流でございますが、頑張っていきたいなと思ったということでございます。

以下、座って審議をさせていただきます。

(末永会長)

それでは本日の会議の議題でございますが、知事への政策提言としての提言書(案)をまとめることになっております。次第にありますとおり、提言書に関連しまして事務局から報告させていただきます。

最初に報告事項ということで、資料1の「青森県基本計画 未来を変える挑戦アウトックレポート 2014」についてであります。これは基本計画の推進に当たり、当審議会には県が行う施策の自己

点検に対して検証を加えるという役割が与えられております。各部会において関係する分野の政策点検調書等について県とともに検証作業を行ってきたところでございますが、この度その結果がアウトトラックレポートという形において取りまとめられましたので、事務局の方から報告をお願いいたします。

(事務局)

企画調整課総合政策推進グループマネージャーの安藤と申します。よろしくお願ひいたします。

私の方から、アウトトラックレポートについてその概要を御報告させていただきます。

まず本体でございますけれども、皆さんにお配りをしておりますこちらの「アウトトラックレポート2014」という表題の冊子が本体となっております。こちら、新しい基本計画が本年度スタートして、最初のアウトトラックレポートということになってございますが、県の施策の状況をより分かりやすく、見やすく御覧いただけるような形で工夫をして作成させていただいたところでございます。

詳細につきましては、後ほど御覧いただければと思っておりますけれども、私の方から資料1と題しております「アウトトラックレポート2014（概要）」と書いてあります資料に沿って御説明させていただきます。

まず1ページ目を御覧いただきたいと思ひます。

こちら、アウトトラックレポートの趣旨についての御説明でございます。アウトトラックレポートとは、基本計画に掲げております4つの分野を構成する政策に係る点検、そして注目指標であります1人当たり県民所得と平均寿命の分析、そして団体・企業等ヒアリングなど、各種調査の結果をもとに、本県の立ち位置を様々な角度から把握するとともに、県が進むべき方向をまとめたものでございます。

基本計画を推進するためのマネジメントサイクルについては、1ページ目の下のフロー図を御覧いただければと思ひます。本日、御議論をいただきます青森県総合計画審議会の皆様からの提言書、そしてこのアウトトラックレポートなどを踏まえまして、知事、副知事によります作戦会議を行い、そこで次年度の取組の重点化の基本方針というものを決定いたします。その後、当該基本方針に基づきまして、県庁の各部局におきまして平成27年度の重点事業の企画・立案を行っていくというサイクルになっているということでございます。

次のページ、2ページ目を御覧ください。

アウトトラックレポートにおきましては、本県が進めております政策、施策の自己点検を行い、現状と課題を把握した上で、今後の取組の方向性をまとめておりますが、その主なものの御紹介をさせていただきます。

基本計画に掲げる4つの分野におきまして、合わせて20の政策があるわけでございますが、1つの○が1つの政策に対応するような形で今後の取組の方向性を記載しています。

分野ごとに概要を申し上げますと、まず産業・雇用分野におきましては、ニーズに対応した生産振興ですとか地域の6次産業化、そしてライフ分野の付加価値向上、再生可能エネルギー等による産業振興、そして北海道新幹線開業に向けたプロモーションなど、仕事づくりや所得の向上につながる取組についてまとめています。

また、2つ目の安全・安心、健康分野でございますけれども、ヘルスリテラシー（健やか力）の向

上ですとか、医師・看護師の確保・定着、結婚・出産・子育てへの支援、自主防災組織の結成促進など、命と暮らしを守る取組。

そして3点目の環境分野におきましては、白神山地の保全と利活用の推進ですとか、3Rの取組推進、そして県境不法投棄現場の環境再生、「環境出前講座」の持続可能な体制構築など、低炭素・循環型社会の実現に向けた取組。

最後に4つ目では、教育、人づくり分野でございますが、グローバル人財の育成ですとか児童・生徒の運動量増加・体力の向上、そして縄文遺跡群の世界遺産登録の推進など、生活創造社会の礎となる人財育成や文化、芸術、スポーツ等の振興に向けた取組などが今後の方向性となっております。

続いて3ページ目を御覧いただきたいと思えます。

3ページ目ですが、本県の立ち位置を把握するための注目指標であります1人当たり県民所得と平均寿命の分析結果を記載しております。

1点目の1人当たり県民所得につきましては、23年度の確報値が233万3,000円と、昨年度、平成22年度と同水準となっております。1人当たり国民所得を100とした場合の水準は85.9となっておりまして、前年度と比べて1.1ポイントのプラスということで、比較可能な平成13年以降、最高水準という形になっております。また、雇用情勢につきましても、平成26年度第1四半期については有効求人倍率が0.78倍と、過去最高水準となっているところでございます。

続いて2の平均寿命でございますが、こちらは5年に1度更新されますので、22年の数値となっておりますけれども、男性は77.28年、女性は85.34年で全国最下位となっているところでございますけれども、本県では御案内のとおり、3大疾病、悪性新生物ですとか心疾患、そして脳血管疾患が平均寿命に与える影響が多くなっておりまして、比較的若い世代の3大死因による死亡も多くなっているということでございます。

以上で、私の方からアウトルックレポートの概要の説明を終わります。

(末永会長)

どうもありがとうございました。

ただ今、事務局の安藤グループマネージャーの方から2014年度のアウトルックレポートに関してまして概要を御説明いただきました。これが各部会の委員の皆さん方がそれぞれの部会で自分に関係するところを議論されたところだと思います。

いずれにいたしましても、他の部会の部分もありますので、もし今の件に関しまして御質問などがあればお受けしたいと思えます。何かございますでしょうか。

よろしいですか。

それではアウトルックレポートに関しましては以上とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは本日の議題であります提言書案の審議に移りたいと思えます。

お手元の提言書案、資料2でございますが、県が来年度の取組の重点化を図る上で、方針を決定する際の判断材料とさせていただくものでございます。今回の提言書案の作成に当たりまして、委員の皆様に分野ごとに3回、部会という形において御審議いただきました。それから、さらに部会長には幹事会ということで、さらに御足労をいただきましていろいろ議論をしたところでございます。私も

各部会に極力時間があれば出させていただいたのですが、各部会においてちょっとバラツキがあるんですが、2分の1ぐらいしか出られなかったということでありまして、大変恐縮であります。

いずれにしても、各部会においては極めて短期間の間に、かつまた特に第1回目はかなり時間を取られたと思いますが、大変集中的に長時間にわたりまして御審議をいただきました。改めて御礼申し上げたいと思います。

それでは各部会での議論を踏まえて、4部会長と私で構成されます幹事会において議論しました提言書案につきまして、総括的な部分につきましては私の方から、そのうち4つの分野別に関しましては各部会長から御説明をいただきたいと思っております。

なお、総括的な部分は5分程度お時間をいただきまして、その後、各分野に関しましては3分程度で御報告いただきたいと思っております。

それでは提言書案の表紙をめくっていただきたいと思っております。1ページ目、これが総括的な部分であります。

これまで委員をおやりになっていた方もここに多数いらっしゃいますが、今年度は昨年度までと若干提言の仕方が変わっています。と言いますのは、下の方のゴシック体で書かれているところがありますが、昨年度は4つの部会のそれぞれに関しまして、それらを取りまとめてここで報告をするという形を取りました。今年度から、そういうふうな形ではなくて、いわゆる分野横断的に、かつまた3つの戦略プロジェクトを念頭に置いた形で総括的な提言書となっております。その辺が昨年度までと若干違うところでございます。

そういうことを少し念頭に置かれまして、以下、私の方で御報告させていただきます。

本年度から、御承知のとおり「青森県基本計画 未来を変える挑戦」、今までは未来への挑戦でありましたが、本年度から未来を変える挑戦という形でスタートいたしました。その基本的なコンセプトは、先ほどの知事の御挨拶にもございましたが、「強みをとことん、課題をチャンスに」という基本的なコンセプトの下に、世界が認める青森ブランド、これの確立を目指すということでもあります。

このためにはどうしても分野横断的な形において取り組まなければいけません。さらに、特に重点的な3つの戦略プロジェクト、これを積極的に展開していく、このことが必要であるというところでもあります。

もちろん、先ほどの知事の御挨拶にありまして、青森県の方としてはこの3つの戦略プロジェクトに関しましては既に取りかかっているということでもあります。

さて、そういう中において、次年度においてはこの取組を更に深化させるために、大きな課題である人口減少社会の進展及び全国最下位である平均寿命に対しては更なる危機感をもって、時機を逸することなく思い切った対策を講ずるべきであるというふうに考えております。同時に、北海道新幹線がございますので、そういう開業というチャンスを多角的に活用することによって交流人口の拡大を図っていくことも重要であるということでもあります。

また、本県の強みである食に関しましては、食と言えば青森県と言われるように、まさにこれが青森ブランドでございますが、そういう取組を一層強化していくべきであると考えております。

さらに、これまで同様に、青森県の課題である雇用の創出、暮らしの安全・安心の確保、環境保全、次代を担う人財育成の取組、これを着実に進めていくことが求められていると思っております。

そういうことにおいて、以下の視点及び各分野別提言により取組の重点化を徹底し、チャレンジ精

神を持ってこれまでの既成概念にとらわれない大胆な事業の企画・立案に取り組まれることを提言するということでございます。

以下、4点にわたって提言しております。

第1点、これは2、3、4、これらのための前提になります。県政の最重要課題に分野横断で挑戦する3つの戦略プロジェクト、「人口減少の克服」、「健康長寿県」、「食でとことん」について、中長期的な視点を持ちながら早期の効果発現を念頭に、集中的かつ重点的に取り組むこと。

2番目、これは人口減少克服に当たりますが、人口減少の克服に向け、結婚・出産・子育てしやすい環境づくりについて踏み込んだ対策を講じるとともに、安定的で質の高い雇用の確保や女性・若者・シニア世代が活躍できる仕組みづくり、持続可能な交通ネットワークの構築などを進めること。また、北海道新幹線開業効果を最大限獲得できるよう、魅力ある商品開発や受入態勢の整備、積極的な情報発信などに戦略的に取り組むこと。

3、平均寿命と健康寿命の延伸や働き盛り世代を中心とした健康改善に向け、地域・家庭、職場、学校などにおける健康づくりと生活習慣病対策に徹底して取り組むとともに、県民がスポーツに親しめる環境づくりを促進すること。

4、食産業の振興については、地域資源を生かし、県内において付加価値を増加させ、青森県産品のブランド力を高めるための戦略的な取組を一層推進するとともに、食産業を支える人財の確保・育成を進めること、ということでございます。

以上、4点にわたりまして、まあ1番目の提言は総括的な部分でございますが、2番、3番、4番はそれぞれ4つの分野を横断的な形において考えた提言ということになっております。

以上が総括的な部分でございます。

では引き続きまして、各分野別の提言をそれぞれの部会長からお願いしたいと思います。まず2ページにありますが、産業・雇用部会、井口部会長、お願いいたします。

(井口部会長)

それでは産業・雇用分野の部会長を務めております井口から報告させていただきます。

もう既に会長の概要の説明でほとんど言い尽くされたと思いますが、若干その中に無いようなことも加えたいと思います。

ここでは6つの項目でまとめてございます。やはり一番青森県の強み、強みはたくさんありますけれども、1番のアグリ、いわゆる農林水産業。他県と差別化したブランド化の取組とか、グリーン・ツーリズム等による顔が見える形での県産品の魅力発信。それから6次産業化。6次産業化と言っても、本当に持続可能な取組になっているかどうか。従って農商工連携や地域ぐるみでの取組を推進する必要がある。それから農産物の高品質化や低コスト生産ということで、海外の事例を参考にする。その1つとしては、水産業では資源管理型漁業の推進等も考えられる。それから、長寿命化とか全ての分野と関係ありますが、青森ライフイノベーション戦略に掲げた医療・健康・福祉の分野でのクラスター形成と、そしてここでは医工連携。そういう意味で非常に重要である。それから、実際の医療現場だけではなくて、ICTを活用した健康促進モデルや子育てをしやすいということも重要である。

それからグリーン、環境エネルギー関連。これはちょっと触れてないので詳しく述べますが、青森

県には再生可能エネルギーの資源はたっぷりあります。そして、その中で一番開発されているのが風力ですが、これからやはり太陽光、あるいは地熱、地中熱、潮流、バイオマスの開発が非常に重要であり、弘前大学北日本新エネルギー研究所などと連携をする必要がある。それからもう1つ、本県にはやはり原子力関連施設があって、いろいろ今、規制委員会等があって東北電力も原燃も苦悩しているわけですが、これはやはりいろんな点で動かさなければいけない。そのためには原子力人財育成と研究開発拠点、今始まりましたが、そこをしっかりとつくと。そして学生等に対するエネルギー教育が非常に重要であると考えております。

それからターゲットを明確にした戦略的な誘客の推進。北海道新幹線開業がもう目前になっているわけです。もうすぐだというのに観光業、旅館の方達の感じ方がまだまだできてないんじゃないかということで、しっかりと、強みがあるんだということを把握しなければいけない。それからさっき飛行機の話が出ましたが、やっぱりシニア層、アジア人観光客と、こういうターゲットを明確にしたPRが非常に重要である。私は頻繁に新幹線で青森、弘前、八戸に来ますが、やはり小グループ旅行が非常に盛んですね。シニア層、自分もシニアですが、非常に重要で、私も嬉しくなって時々「ここへ行ったらどうですか」なんて話しかけますが、まさしく、温泉等もあって、青森県のすばらしい強みがあるわけです。

それから地域資源、先ほどと関係しており、企業誘致、あるいは産業振興という意味では産学官金連携の研究開発、知的財産の活用、これを進める。

もう1つは商店街の活性化。なかなか厳しいけれども、子育て支援、介護、医療と商店街の活性化を連動させることが重要かと。私も八戸はよく行きますが、八戸の市街地に少しシャッター街的ではなくて、新しい複合施設ができつつあります。

それから、もう1つ強みは、元々質の高い働く人達の層はあるのですが、そのような人財資源を活用して産業振興や戦略的な企業誘致が重要であると。そのためには新卒の学生を地元に取り込んでおくということと、首都圏等の県出身の大学生に再度戻ってもらうこと。そして1人戻るときに、0.5人ぐらい誰かを連れて来ると。このようなキャンペーンもぜひ必要ではないかなと思っております。以上です。

(末永会長)

井口部会長、ありがとうございます。ただ今、産業・雇用分野でございました。

それでは引き続きまして、安全・安心、健康分野、久保部会長からお願いいたします。

(久保部会長)

安全・安心、健康部会です。安全・安心、健康部会では、それぞれの分野の委員より熱心な発言があり、また、それを事務局がうまく吸い上げて提言としてまとまったと思ってございます。

全部で5つの項目となります。

1つ目の○は、先ほどの総括的提言3、県民の健康増進につながる部分です。昨年県内においてテレビ、新聞、あるいは企業の社会貢献の1つとして短命県返上が大きく掲げられており、県民の関心も高まり、県民運動としてよい方向に進んでいるのではないかと感じております。この勢いを一過性に終わらせることなく継続していくためにも、市町村、関係職種が連携して一層活性化させてい

くべきであります。

特にがんにつきましては、県内のデータが充実してきましたので、それをうまく活用すること、自殺については見守りを強化することが必要と考えます。いずれにしましても、早期発見、早期対応の姿勢が大切と考えます。

2つ目の○は、それを支える人財の確保と、現在整備されている体制をより充実させていただきたいということです。ちょっと明るいデータもあって、例えば健康寿命の女子が最下位ではないとか、それから国民健康栄養調査によると前回の調査より食塩の摂取量が1gくらい減っているとか、ぜひ早期発見が見えるように県民総意で進んでいければよいと期待しております。

3つ目の○は、総括的提言2、人口減少の克服につながるものです。人口減少は社会の様々な分野に影響を及ぼすという観点から、結婚、出産、子育てに関わる支援や環境づくりを社会全体でつくり出す気運醸成と、今一步踏み込んだ対策を講じるべきと考えます。また高齢者が自身の生きがいにつながるような活躍の場づくりの必要性も同時に挙げられました。

4つ目の○は、同じく総括的提言2に関連して、人口減少により生じる交通弱者、買物弱者への対応です。公共交通だけでは足りませんので、企業やNPO、地域が連携した交通ネットワークの構築が必要であること、また公共インフラの老朽化に対しては必要度に応じた効率的な維持管理が必要であることが挙げられました。

5つ目の○は、東日本大震災の記憶が風化しているのではないかという危機感を強く感じ提言されたものです。より真剣な自主防災組織の組織率向上や活性化、各種団体の連携強化、災害発生時の県民への情報提供体制が必要と考えます。原子力施設の安全確保についても同様に、県民への情報提供、関係機関の連携など、緊急時の対応能力の向上に取り組むべきであると考えます。

全般的に画期的な提言は少なかったと思いますが、今ある政策や組織体制、これに対してより踏み込んで、よりスピーディーに、より連携して、という意見が多かったように思います。

以上です。

(末永会長)

ありがとうございました。

それでは3番目の環境分野、橋本部会長からお願いいたします。

(橋本部会長)

環境分野について御説明いたします。

環境分野は4つの提言にまとめております。まず1つ目の○ですが、白神山地を始めとした自然との共生に向けた環境づくりでございます。これにつきましては、皆さん御存じのとおり世界自然遺産白神山地は登録後20年を経過しました。これまで環境部会で話し合った中では、自然保全というものを前面に出してきたのですが、ここに来て、やはり地域の持続的発展というのが必要じゃないかと思えます。自然や文化を守り、未来への遺産として引き継いでいく活力のある持続的な地域づくり、これを自然保全と併行して進めるべきではないかというのがまず1つになります。

それから2つ目の○でございますけれども、今、1つしか○がついていませんが、最後の部会が終わった後、日々、これが二重丸とか三重丸じゃないかなと思えています。

2つ目の〇は、県と市町村の連携による3Rの更なる推進です。ここで書いてあるのは、ごみの排出量とごみのリサイクル率について書いてございます。一般廃棄物、皆さんの家庭より排出されるごみ、この問題は切迫感をもって対応すべきであるという強い意見が委員の中からありました。例えばでございますけれども、最近、八戸市の一般廃棄物の最終処分場の屋根が落ち、使えない状態になった。また、青森市では、何か計算のミスがあったのか、他の市町村に依存しなければごみが処理できないというふうな、非常に危機的な状態になってきているのではないかなと思います。

そういう中で、「もったいない・あおもり県民運動」に大いに期待したいと思います。県が個別のごみ問題についてやるわけではないのでしょうけれども、その旗振り役として一層取り組むとともに、更に効果的な促進策を検討していただきたいと思います。

3つ目の〇は民生、これは家庭部門でございますけれども、家庭部門の省エネ対策支援と再生可能エネルギーの普及でございます。昨年度は中小企業の省エネを前面に出して検討をお願いしてございましたけれども、今年は『住まい』、皆さんの家庭についての省エネルギーをお願いしたい。特に現在、雪と寒さに強い住宅についてのガイドブックが作成されてございますけれども、これをより県民に分かりやすく省エネのメリットを伝えるようにすべきだと思います。

段落の2つ目ですけれども、再生可能エネルギーにつきましては、井口部会長の方からもお話がございましたけれども、ここではいわゆる石炭・石油の化石燃料由来のものを再生可能エネルギーになるべく変えていこうという視点で考えています。本県が高いポテンシャルを持っていることは皆さん周知のことでございますけれども、ただ、あるだけ、持っているだけではなく、活用して豊かさに変えることが必要ではないかと思います。

それから4つ目の〇、自然とのふれあいを通じた環境教育の推進です。環境教育については座学、室内研修ですね、それから創作活動、自然体験型、環境保全、いろいろなメニューを、いろいろな団体でやっているようですけれども、やはり継続性を考えて魅力的な体験プログラムの創設が必要だと思います。自然の大切さや学びの喜び、これは学んだことを生きる力とすることで得られると思います。未来を変える挑戦のために、次世代に継承すべき環境教育をぜひお願いしたいと思います。

以上です。

(末永会長)

ありがとうございました。

それでは最後になりましたが、教育、人づくり部会、高山部会長お願いいたします。

(高山部会長)

教育、人づくり部会の高山でございます。よろしく申し上げます。

私どもの方では4つの項目を掲げてございます。1つ目は、郷土に誇りを持ち、グローバルに活躍できる人財の育成、それから2番目が社会全体で子どもを育む環境づくりの推進。ここまでが青森の未来をつくる人財ということで考えて項目を出してございます。3番目の、女性、若者、シニア世代の多様な人財が活躍する青森県、これは青森の今をつくる人財の育成ということで考えて項目を出してございます。それから最後は青森の今と未来をつくと、芸術の魅力発信とスポーツライフの実現。ここで終わってもいいんですけれども、もうちょっと詳しく、お時間をいただいて。

最初の「郷土に誇りを持ち」のイメージを申し上げますと、ここではグローバルというものを非常に強く意識して項目立てをして中身を検討いたしました。地球規模で人、モノ、情報、お金がいろいろ動く時代で、青森県の子供たちがどう生きるべきかということでは、日々変化する社会環境に適応、あるいは揺れ動く国際情勢という部分も踏まえ、と、「郷土に誇りを持ち」、これは当然なんですけれども、「異文化を理解し、自分の考えを主張できる表現力」、あるいは「コミュニケーション能力を身につける必要がある」ということで我々で考えてここに文章化してございます。

「そのためには」ということで、いろんな海外での学習機会の充実、韓国でのいろんな語学キャンプみたいなことを意味しますね。それから JICA とか海外ボランティアの皆さんのいろんな知見の活用とか、様々な部分で県民、あるいは海外で活躍する人財の方々がこの辺をサポートするというところで考えました。

それから2番目、ここでは社会全体で子どもを育む環境づくりの推進ということで、ここでは将来の夢や志の実現に向かって主体的に取り組むと、挑戦ということをして1つキーワードにして考えてございます。そのためには、いろんな地域の産業、職業、あるいは様々な形で青森県を理解すると。そのために学校、家庭、PTA、地域の企業、NPOと、主体的に関わっていくことが必要であるというふうを考えて文章化してございます。学校の関係でいくと少人数学級編制と、これは非常に青森県が充実しているということで、このまま進めて欲しいという意見でありますとか、あるいは発達障害等につきましても更に一層充実して欲しいという意見がございました。

それからものづくりの部分は、先ほど産業・雇用のところでもお話がありましたように、エネルギーも含めたいろんなものづくり、初めは理系ということで考えたんですけども、もう少し幅を広げた方がいいのではないかとということで、このような形にまとめました。

それから3番目、青森の今をつくる人財の育成。ここは極めて女性ということ強く意識している考え、皆で話し合いました。いわゆる人口減少社会において労働力の減少という部分では女性とシニア層の活躍ということで、そのために頑張りたいということ、県内企業においてもワーク・ライフ・バランスとか、その辺の部分もどんどん推進して欲しいということで話し合っています。

それから次の8ページですけれども、農業分野の女性の活躍というものをより一層充実させて欲しいということも考えて文章にまとめてございます。

最後は、青森の今と未来ということなんですけれども、「郷土に誇りを持ち」ということも含めまして、今進めております三内丸山遺跡を中核とした「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録ということ強く推進して欲しい、あるいはスポーツについて親しめる環境づくりという部分がある健康づくり、短命県返上にもつながるのではないかとということで、4つの項目でまとめてございます。

以上です。

(末永会長)

各部会の部会長、ありがとうございました。

それではここで、この提言書案、総括部分、それから4つの分野でございますが、これに関しまして審議に移りたいと思います。質問事項、あるいは確認事項、そういったのがありましたらそういっ

たことでも結構です。また提言に当たりまして留意すべき事項がありましたら、またそれもぜひ御発言いただきたいと思います。

更には、内容を補足するような、そういう積極的な御意見もございましたら御発言をいただきたいと思います。

それではどなたでも結構です。ぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

毛利委員。

(毛利委員)

お疲れさまでございます。

全体を通して、4つほどありますけれども簡潔に述べたいと思います。

まず4ページに関わるところで、これは中にもう入っていることとは思うんですけども、人口減少社会における、出産も含めてのことですが、実際に妊娠してから本人が分かるまでの間、この間って結構あります。その中で喫煙、飲酒の習慣のある女性の場合、着床してから妊娠を本人が分かるまでの間にもうタバコを子どもが吸っていることになる、それからお酒を飲んでいることになるということが実際にある。特に青森県の場合は女性の喫煙率が高いということもあるので、その辺の啓発活動といったものも多分必要になってくるのかなと思っております。

これは、この内容にどうこうということではないんですけども、考えておくべき1つのことなのかなと思います。

それから2つ目です。交通ネットワークの件ですが、青森市の環状7号線の交差点を例に取りますと、新聞等でもありますが、あそこはワースト1、2を争う事故の多い交差点です。新聞等で何度も書かれていますが、道路に色をつけたりとか改善は見られていますけれども、相変わらず事故が多いと出ております。これは雪のことが考えられてないというのが一つ、私があそこを走っていて感じる場所です。この辺、国道でしょうけれども、道路の設計とか設計する際のコンセプトに青森県の雪が降ると、半年は雪に閉ざされるということが加味されているのかどうかということについて、教を請いたいところでございます。

それから3つ目ですが、環境分野の3Rの更なる推進というところに絡むのですけれども、スーパーマーケットのプラスチックごみが非常に多いと。リサイクルをされている、されていないの前に、狭いアパートに住んでいる人達からはごみの置き場所がないと。プラスチックごみが非常に場所をとるものですから、というところが実際に主婦の間では普通に語られています。1つのアイデアですけども、プラスチックごみの出ないスーパーマーケットというものを試してみる価値はあるのではないのでしょうか。これは青森から発信して、全国で同じ悩みを抱えている方が多いと思うので、そういった取組も今後考えていってもよろしいのではないかなと思います。

それから最後、4つ目なんですが、これは全体に関わることでですけども、テレビでAC公共広告機構というのがあります。これは全国の企業とかがお金を出し合って、民放で売れ残ったCM枠があったらそれを使ってくださいということでやっているものです。青森のいろいろな啓発活動とかに、やはりテレビの視聴習慣が非常に青森は多いものですから、このACの青森版みたいなものを作って、民放局がCMが売れなかったところに優先的に流してもらうということで、例えば人口の問題、それから健康の問題、そういったところを訴えていくのも1ついいのではないかなと思っておりま

した。

すいません、長くなりました。ありがとうございます。

(末永会長)

ありがとうございました。

ただ今、毛利委員からかなり具体的な、まあこういう提言書にはそこまではなかなか盛り込めませんが、かなり具体的な形においての御質問と御提案がございました。

1番目は人口減少社会で出産から妊娠、妊娠してから出産するまで、あるいは着床まで、女性が妊娠される場合、その場合の喫煙の問題などがあるのではないかとということでもありますので、これは久保部会長の方から。

それから2番目は、交通ネットワークで非常に道路などで危険なところがある。そういったことが議論されたかどうかということで、これも議論はされていると思いますが、その辺に關しまして、これも久保部会長の方からお答えいただきたいと思います。

それから3番目、3Rに關しまして、プラスチックごみですね、これが非常に多く出て、その処分に困っていると。そういう中ではモデルケース的なものを創っていくのもいいのではないかとということで、かなり具体的に出ましたが、これは橋本部会長の方からお答えをいただきます。

それから4番目、ACですね。時々出ますが、それを活用したらどうかと。これは私の方からお答えをするということで、一言ずつ、回答と言いますか御発言をいただきたいと思います。

まず久保部会長から。

(久保部会長)

まず妊婦の喫煙の問題ですけれども、これは妊婦だけの問題ではなくて、やっぱり周りの方が吸うと直接妊婦に影響があるという観点から、もう子どもの時からの喫煙習慣をできるだけ抑えていきましよう、そういうところで、例えば1つ目の○のところの「健康的な生活習慣」、そのあたりからもうやっていかななくてはいけない問題かなと思っております。もちろん妊婦自体の注意も必要だと思いますけれども。

それからもう1つは道路のことですが、これは4つ目の○の2段落目「また」ということで、部会の中でも交通マナーが悪いことによる交通事故のことも随分出まして、特に高齢者がルールやマナーを学習する場がないということでも出ておりましたけれども、同時に道路環境ということで、例えば街灯の問題とか表示の問題とか、そういうのも出ましたし、それから雪については歩道がもう雪で通れないので皆、車道を通っているということで、そのあたりはこれから改善していくべきところだと思います。

回答になりましたでしょうか。

(末永会長)

今、久保部会長がおっしゃったとおりで、私も安全・安心、健康部会は3度のうちの2度出させていただきましたが、そこでもそういう具体的なものもかなり議論されておりました。

ただ、先ほど申しましたように、それを一つひとつというのはなかなか大変ですので、それらをこ

のような形においてまとめさせていただいたということで御理解をいただければと思います。

それでは環境の方、橋本部長、3Rに関しまして。

(橋本部長)

3Rと言いましても、プラスチックごみについてどれだけの量があるのかは、今日は数字を持っていないのでお話できませんけれども、回収が非常に難しいと思います。

先ほどの御意見は、プラスチックの出ないスーパーの出店というお話でしたので、これが商売になるのだったらよろしいかと思います。ただ、先ほど言った、なぜ回収が難しいかという、プラスチックと言っても様々な種類がございまして、それらのものを分別することが果たして家庭でできるのだろうかと思います。具体的に申し上げますと、塩化ビニール、これが混入しますとリサイクルして使う側は嫌がります。例えば炉に入れた場合には塩素分があるわけですから、炉を傷めるという問題がございまして。その他に、ソース等の容器に使ったものには付着物が付いています。そうすると内容物の腐敗の問題が出てきます。ですから、プラスチックごみ、要するに包装容器としてのプラスチックごみを回収するのは、やるべきだというのは分かるのですけれども、どうすればいいのかというのが分かりません。

そう言いながらも一部で発泡スチロールのトレイ、これについては回収していると思います。家庭で困るということではなくて、スーパーに持ち込めば何とかなっていると思っています。

御質問というか御意見の、プラスチックの出ないスーパー、商売になるのであればぜひやってもらいたいと思います。ただ、商品の売値に係る容器費用比率がどれくらいかが問題になるのです。もう1つは容器としてプラスチック以外の何を使うのかという問題が出てくるかだと思います。ちょっと回答になったかどうかですけれども、プラスチックはとにかく今はまだ難しい状態であるということをお知らせしておきます。

(末永会長)

ありがとうございました。

今、橋本部長からありましたけれども、ごみ処理経費の見える化ということで、これも様々な研究をしていかなければいけないところがあるんですね。それぞれのごみ、そういったものをどのような形で分別するか、あるいはどういうふうになくしていくか、いろいろありますので、その辺はまた関係部局でだいぶ研究されていると思いますので、今、毛利委員から御質問があったようなことも、あるいはこれから提案されていくかもしれませんので、そういうことで御了解をいただければと思います。よろしいでしょうか。

それから最後のACに関しまして、私の方から簡単に言いますと、私もACを見ます。なるほどなと思います。特に3.11の大震災以降、すごくこのAC、公共広告ですか、これが出たので皆さんよく御承知のとおりですね。今も出ています。多分、これも放送のコマーシャル料としては安いのだろうなと思っています。

青森県は、県としても地元の放送局、あるいは報道機関、そういったものを通して様々な形において青森県の政策をいろいろ県民にPRといいますか、いろいろと発信しておりますし、今後、そういった枠がもしあれば、その辺はまた県の方として何らかの形で、まあ安く、なるべく費用の掛か

らないような形で宣伝することができればそれに越したことはありませんので、その辺はまた事務局の方で御検討をいただければと思います。そういうことでよろしく願いいたします。

以上、毛利委員からの御意見、御発言に関しましてでありましたが、その他、委員の方々何かありますか。

どうぞ、内田委員。

(内田委員)

産業・雇用部会の内田です。内容については特に異論はございませんが、はるばる遠い名古屋から来ておりますので、一言だけ申し上げたいと思います。

産業・雇用分野に関しましては、先ほど井口部会長から御報告があったとおりで過不足ない内容となっておりますが、1点だけ、2ページ目のアグリ分野の持続的発展の4行目に「県産品の魅力発信」という文言がありますが、今後、具体的な施策を展開していく時に、グリーン・ツーリズムを含めた「訪れてよし」という実際に来てもらって県産品の青森ファン、ブランドファンをつくるというアプローチに加え、併せてふるさと納税の特典を県産品のブランディングや供給ルートとして検討してみることも必要ではないかなと。県産品の域外マーケットとしては県出身者だけでは足りませんので、血縁・地縁のない潜在的なプラスアルファのマーケット開拓という点で今後考えていただきたいと思います。

ちなみに、昨年度末に全都道府県のふるさと納税の特典を閲覧した際には、青森県は比較的、特典を設定している市町村が少なく、例外として五所川原市だけはかなり特典が充実していた印象でした。たしかに、特典狙いの納税者が多いのも事実ですが、ミイラ取りがミイラになるといいますか、いろいろ調べていてそこから観光に来るといような方も多いと思いますし、その方が情報源となってブログや口コミ等で情報が周囲に拡散するケースも想定されます。最終的には青森に観光に来てもらって青森ブランドのファンになっていただくことが目的です。他県には体験型の商品の特典に入れているところもあるようですので、そうなると、3ページ目の誘客にも自然につながっていくのかなと思います。

(末永会長)

ありがとうございます。これから施策を展開していくために、今、内田委員から御提案がありましたようなことも十分踏まえていただきたい。

昨日でしたか、一昨日でしたか、ニュースでふるさと納税をやっている、あれ、いいですね、内田委員もぜひやってください。20,000円やると18,000円分は控除になるんですね。それで大体2,000円以上の商品とかを送ってくる。しかし体験でも、岸和田市だったかな、滝に打たれる体験というのは誰一人欲しいという人がいませんと担当者が言っていましたけれども。

内田委員、ぜひよろしく願いします。井口先生も一つ、ふるさと納税、こういうのもありますから。

いろいろな方法を考えて、単に税収を増やすということではなくて、青森県の魅力を知ってもらう、発信をしているんですから。また知ってもらって、また来てもらうということですね。それこそ青森ブランドの確立となり得るといことで、内田委員からの御提案だったと思います。ありがとうございます

いました。

その他、何かございますでしょうか。

田中委員。

(田中委員)

教育、人づくり部会の田中です。

先ほど妊婦さんのお話が出たので。

最近ちょっと懸念していることがあるんですけども。妊娠したということが大体分かる障害のあるお子様かどうかの検診が、今随分進められて、はっきり分からないのに疑いという形でお話をお医者さんから聞くと、とても不安な状況になって、はっきり言うと、出産するかどうか悩む妊婦さんも、今すごく増えているんですね、現実的に。そういう時に、やはりまだどこに相談に行ってよいか分からない。現実には個別に相談を受ける方々も、どこに相談に行けばよいのだろうか、それから実際に障害を持って生まれたお子さんを育てるとしたら、どういう覚悟が必要なのかとか、そういうことを随分聞かれるんですね。障害を持っている子ども達の施設の理事長もしているので、「どうしましょうか。行ってみますか。」とか、「経験のある親御さんに話を聞いてみますか。」と言うのですが、結果的に相談を受けた方は障害を持っていなかったんです。

だけど、その間の不安というのはすごいものでして。健康の相談というのか、いわゆるこれから出産に向けての支援体制の中に、この分野もかなり強く入れていっていただかないと、下手に不安をそそるようなそういう状況がちょっと目に見えてきていますので、ぜひこれは検討していただきたいなと思います。

(末永会長)

ありがとうございました。

4ページの3番目のところに、それに関する提言はありますが、久保部会長、今の御発言に関して何か一言あれば。

(久保部会長)

今、末永会長からもありましたけれども、一応そういうふうに具体的に事前の検診でというのは出ませんでした。やはり、相談場所のこととか、それから家族に対して様々な支援の場をつくらなくてはいけないというのは出て参りましたので、新しい問題として今後またそういうことも検討していかなくてはいけないと思います。

(末永会長)

そういうことで一つ、ここに書かれている形で、それをより具体的な政策として展開していただくということで了解してください。

村上委員。

(村上委員)

この提言書も「青森県基本計画 未来を変える挑戦」も、非常に皆様頑張っていたいただいて形良く、素晴らしくできたと思っています。ありがとうございます。

ただ、青森には原子燃料サイクル施設も原子力発電所もあります。そしてそれを県民も認識した上で、なおかつ県民の安全もというふうに考えているわけなんです。

ですから、時間がかかるかも分かりませんが、例えば、避難路という形態か形式でもよいですから、国道 279 号、それから 280 号を全て高速にするとか、あるいは海岸線に全部高速道路を造成するとか、または津軽半島と下北半島を橋でつなぐとか、そういうことを各原子力関連会社や電力会社から御協力いただいて県民のためにやっていただけませんか。よろしくをお願いします。

(末永会長)

ありがとうございました。そうですね、知事も、とりあえずは下北縦貫道路の問題でいろいろ御尽力いただいています。今、村上委員からあったように、避難道とか、そういったものを完全にしておくということは大事だと思いますので、今後、政策として展開していただくということでよろしいかなと思います。

時間が来ましたので、よろしいでしょうか。今、4 人の方々から御意見をいただきましたが、特段、この提言書案を修正したいと、あるいは補足ということはなかったと思います。従いまして、今、いただいたような意見は施策を展開していく時にそれを十分踏まえて展開していただくということで処理させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

それでは、この提言書案の「案」を取りまして提言書という形において御承認いただけますでしょうか。

<拍手>

どうもありがとうございました。

それでは以上で審議は終わります。このように決定いたしましたので、これから知事にこの提言書をお渡ししたいと思います。よろしくお願いたします。

(司会)

末永会長、どうもありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。

それではただ今決定されました提言書について、末永会長から知事へお渡ししたいと思います。

(末永会長)

青森県知事 三村申吾殿

提言書 平成 27 年度を取組に向けて

平成 26 年 6 月 30 日 青森県総合計画審議会

よろしくお願いたします。

(知事)

一言御礼申し上げたいと思います。

今日、こうして27年度に向けた提言書をいただいた次第でございます。委員の皆様方の熱い思いがこもった提言書、そしてまた各部会長にも御発言をいただいたわけでございますが、各部会、それぞれしっかりとした御審議をいただき、そしてこれをまとめていただき提言をしていただいた、そのように受け止めた次第でございます。

皆様の熱い思い、そしてまた私ども、その熱い思いを県民の皆様方一人ひとりの大きな思いであると、そのように考えるところでございます。これをしっかりと私どもも、今、未来を変える挑戦ということでございますが、変えるためにもしっかりとそれを受け止め、課題を解決するために積極果敢にチャレンジしていくと、そのことで具体化していきたいと、そう考える次第でございます。

大変長い時間、そしてそれぞれの部会での御審議、しっかりと進めていただき心から感謝申し上げます。

本日もお忙しいところ、こうしておいでくださいました。併せて感謝申し上げます。ありがとうございました。しっかりと頑張ります。

(司会)

それでは、これをもちまして第21回青森県総合計画審議会を閉会させていただきます。

皆様、ありがとうございました。